

せん妄について

皆さん、こんな経験ありませんか？自分の家族が病院へ入院した時に、何となくソワソワしていて落ち着きがない、いつもよりよくしゃべる、よくわからないことを話している、急に怒鳴る、暴力をふるう、天井に虫がいる等の見えないものが見えている、ウトウトしていて返事をしない、ボーッとしている…。もしかしたら「せん妄」かもしれません。

せん妄とは、病気になってしまうことで身体に変化が起こり、それによって物事を理解することや認識することができなくなってしまう障害のことです。原因は身体の病気であり、脳の病気ではありません。主な症状は、注意障害（ぼんやりしていて言ったことができない、作業がすぐに中断する、いろいろな刺激に反応してソワソワして落ち着きがない）、夜に起きて昼に寝てしまう、認知機能障害、幻覚、妄想、精神運動障害などです。

一見、認知症と症状が似ていますが、せん妄は身体の状態が良くなってくると症状はなくなってきます。一般的にせん妄を起こしやすい方は、高齢、認知症、アルコールをたくさん飲む（またはほぼ毎日飲む）、眠るときに使う薬（不安を和らげる薬、痛み止めの薬、胃薬などの一部）を飲んでいる、全身麻酔での手術や昏睡状態などの重症な患者さんといわれています。また痛み、不安、脱水、排便異常、ストレスなどでもせん妄を誘発してしまいます。

せん妄を起こさないために、次のことを当院では実施しています。周囲の状況が分かるようにカレンダーや時計を病室に置いたり、眼鏡や補聴器を寝る時以外は必ず使用してもらい、痛みなどの不快な症状がある場合は遠慮せずに看護師に伝えるよう説明するなどの対策をしています。また、夜間に眠れるように日中の活動量を増やす、鎮痛剤で痛みを強く感じないようにする、脱水予防をする、排便コントロールをするなどの対策も実施しています。その他にも、患者さんに合わせたケアを行っています。しかし、これらの対策を実施してもせん妄を発症してしまったときは、夜間に睡眠がとれるように、また気持ちが落ち着くようにお薬を使うことがあります。せん妄は私たち医療従事者だけでなく、ご家族である皆さんのお力でも発症を予防することができます。患者さんが早期に回復できるよう、ご協力お願いいたします。

【集中ケア認定看護師 岩澤 恵美】

